

一般質問(要旨) 「市政のここを問う」

今定例会では、18名の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。要旨は1～2問とし掲載しました。

会議録は8月上旬頃に市役所情報コーナー及び図書館に配置します。

また、福生市ホームページにも掲載しますので、ぜひご覧ください。

なお、一般質問通告一覧は、福生市議会ホームページに掲載しています。

※録画映像を議員名左横のQRコードよりご覧いただけます。

▶福生市議会
ホームページ
(通告一覧へリンクします)



横田基地について



正和会
佐藤 弘治 議員



質問 防衛施設周辺放送受信事業の助成対象区域指定基準について、事業の制度及び見直しの概要を伺う。

市長 自衛隊や米軍のジェット航空機の離着陸等が頻繁な地域において、NHK受信料の地上放送分の半額相当を補助金として交付するもの。5月に北関東防衛局より「会計検査院から騒音の実態を踏まえた指定基準の見直し等、交付の透明性を十分

確保すべきとの指摘を受け、今後新たな基準を制定する」との説明を受けた。指定基準の見直しは、市民に大変大きな影響が考えられ、CV-22オスプレイの増備により今後さらに横田基地周辺の騒音が増加する懸念もあることから、防衛省に対し状況の十分な考慮を訴えていきたい。

自転車等の安全利用について

質問 本市の取り組みを伺う。

市長 令和5年4月より全自転車利用者へのヘルメット着用の努力義務化を受け、普及促進及び事故被害軽減のため購入費用を一部助成することとした。また、電動キックボードにおいて運転免許証の不要化等の規制緩和が予定されていることから、安全利用について関係機関と連携し、各種交通安全講習会等を通じルールやマナーの啓発を図りたい。



高校生等に対する経済的支援について



正和会
山崎 貴裕 議員



質問 高校生等に対する経済的支援の現状について伺う。

市長 国や都を中心に奨学金や高校授業料無償化等の制度が多数ある。また、18歳までを対象とする児童扶養手当のほか、高校生医療費助成が始まった。さらに、18歳までの子ども1人当たり月額5000円を支給する事業を都が実施予定で、支援が充実してきている。経済的な支援は国民

の生活を保障する国の役割であるというのが基本的な考え方であり、本市はこれら事業のサポートや、市の役割部分を積極的に推進していく。

幼保小連携のこれまでの成果及び課題等について

質問 これまでの成果や課題と、令和5年度の取り組みについて伺う。

教育長 3年間の取り組みの成果については、新1年生が小学校生活

を円滑に進めるためのスタートカリキュラムの内容改善と、幼稚園・保育園と小学校の交流活動を充実させたこと。課題については、この幼保小のつながりを持続可能にすることである。令和5年度は、参加している幼稚園・保育園への研究の委託やスタートカリキュラムのさらなる改善、「幼保小連携ガイドブック」を作成し、連携を一層推進する。



福生駅西口地区市街地再開発事業について



正和会
小林 貢 議員



質問 令和4年12月定例会で質問した際は、建築資材高騰の影響や補助金確保が難しく、スケジュール変更など、準備組合と協議を始めたとの回答だったが、現在の状況を伺う。

市長 組合とは令和4年10月に一度立ち止まる判断をし、検討してきたが、具体的なスケジュールは示せない状況。再開を支援、推進する考えは変わらないが、大きな公的資

金を投入するため、検討課題が多く、スケジュールが定まるまで時間が必要であることをご理解いただきたい。

市議会議員選挙等投票率向上への取組について

質問 4月の市議会議員選挙の投票率は45.75%で、前回は3.47ポイント下回った。これまでの投票率の分析や投票率向上対策について伺う。

選挙管理委員会事務局長 市議会

議員選挙では昭和34年の91.22%が最も高く、現在に近づくにつれ投票率が低くなるが、一方で期日前投票の利用者は増加傾向。投票率向上の取り組みとして、選挙人名簿に登録された18歳新有権者へのバースデーカードと啓発グッズ送付、コロナ禍で中断した駅頭啓発の再開、市ホームページでの若年層向け投票呼びかけ動画の公開等を実施している。



▲若者向け啓発動画「投票に行こう!-福生の未来のために-」より

福が生まれるまち、福生のまちづくりの推進について



正和会
石川 義郎 議員



質問 ウェルビーイングとは世界保健機関WHO憲章で、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも全てが満たされた状態という意味に定義づけられている。本市の第5期総合計画の大綱の中で、特に「豊かにする」にはウェルビーイングの考え方が多く含まれていると思うが、本市における基本的な考え方を伺う。

市長 ウェルビーイングは国や地

方自治体でも政策の立案等に活用され始めており、市民の生活の質や生きがいの向上を目指すという点では、本市のまちづくりに参考になる面がある。本市総合計画(第5期)の大綱の1つである「豊かにする」では、本市に関わる人の考え方や生活、それを取り巻く環境を多様化し、充実させ、日々の暮らしをより良いものにできるよう各種施策を講じている。

基本事業として「高齢者や障害者等の社会参加の促進」や「生涯学習の推進」、「スポーツ・レクリエーションの推進」等、市民の生活の質や生きがいの向上等に結びつく様々な取り組みを展開しており、これらはウェルビーイングの概念と多くの点で親和性を有すると考えられるため、引き続き総合計画に基づき、これらの取り組みをより一層充実させたい。



▲福生市総合計画第5期より(一部抜粋)